一 □□□□

十二 ひちやうぼうが事

十三 うりげ乃三郎がうたまして

十四 いとうが志田門をれす

十五 とんぼうがむまなくす

十六 女ばうまうが人うはりし事

曽我物語巻第一

一 かしよれたじまり乃事

それだちいさあさ門志田いとれぐふとこちのみと
よりすねこりぐうびちふとびちふなんだんぶよ志んと
あらはれいざなぎいざなぎ志れみことまぞ叫ぶてんだん
七代まてまたしせ給ひさまたあ田てうねりんかしよ
はひこなぎさぎけうがやふさゆりせだの見ことまぞ
叫こちだん又代まておほくのせいさうをおくり給ふ
志うれだんむてんまうとしてまたしそよりはふさあは
せどのみことにくぐてんあるじ百まうふもちじめさし
て天がをおさめ給ひしよりこれかうごくどをかさぶけがん
こんあねそうくまうりことぶん殿二ごうふ志くはなしかう
ぶんあやうしをてうあひせられどはこれかぞんさのまろ
はどとをこんぶ又はようんあともがくをちうしやうせう
まだいはうぞ四ろいあみぶれをぶけめんかるぶゆへまたうの天

そうぶんくりうていはさびをもひくせんしをもやうじ
かんのうそうそこぞやくのうんをさいしてぞよこうをせい
しおひさまぞ御あひごかんそうふも中ごろよりぎん
だいのつもやうじをさぐめをかれしよりこれかこ復つもやくを
ふひてうりをもつぞしたがひにめいもやうの名をあらい
しぞよくのらうぜんをもぞめどそに四百よくらいのと
し月をくりおりんぬ見せいれほんぬ又くりんひれ御いこ
いありもりとのへどもくりしをいぞくへもんよきらあり
やぞりをかこれをあらそふんぞしぞりぐくぬうや

二

これにうこまひとれくるあらそひのす
そもくぐんじといりたぐりんひてんをうよりせぐいめれ
とうじをたひしのみどくやかりぞれよりうじ二人お
りしまひぐい一をこれにれもんをうとやみどことれ御ぞ
よおぼしめしてどうぐうふもそれ御くるをゆづりそそ
まつらぞやとおぼしめされかりぐい二のみそをぞれひとれ

もんをうとやまさいまさいとのあくおもしまれ御もくる
そめどれくりんだくちうぞんこうの御ひもめありかれぞ
一もんのくぎやうかいもやうぞんかくこちでうあひしそ
まつらまれぞまもをよりぐしがくおぼしめされかぶ
かれいかいていあひぐんのうやうありぞまつんさぶる
のもんさうありぞれをそひきてかうそをさぐくるれあう
はまうもやまこしありくぞんかくちびるをひるぐくと
よよのくぞくるをゆづりそまつ御ぞしそでんあん
二孫ん三月二日に二人れみこちをひさぐしくまの里
うこんのぞくぎやうかうあるぐつけのぐんかくもあれも
をかさひ御れりとそをきけしぐうこんのぞくぐぞせう
御ひしきこいのせうじでんがれふしぎとみこちら
もどうぐうのふちんこれよありとみしきれぞ御ぐく
の御いのりどもありかるとこれこれ御いのりのしまれ
りこれぞそうぞやうぞんせいとそどうじのちやうじや

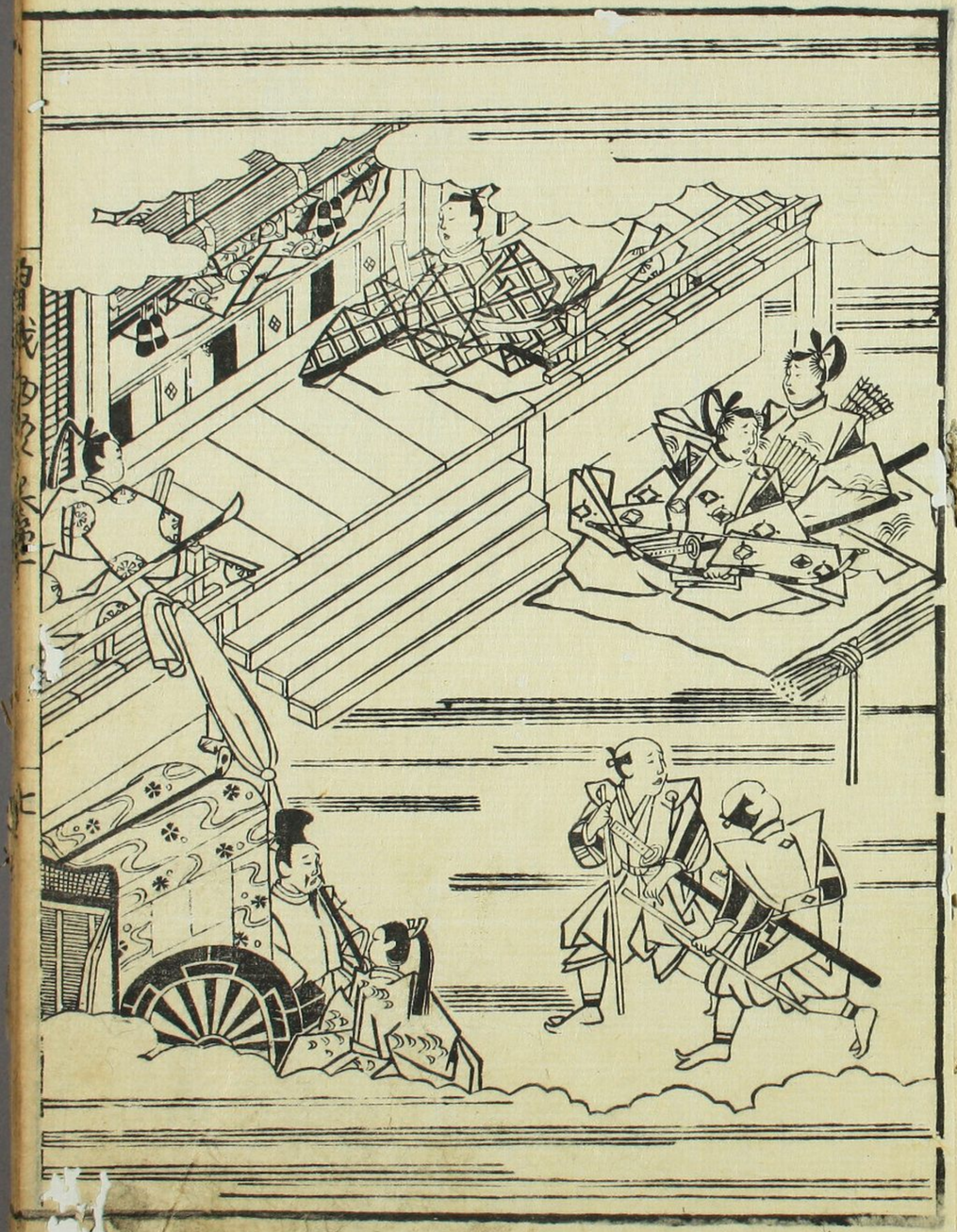
はくりなくしてひ志ばさん乃ふりとそのちゝふとしろにさぢ
こりしせまひかりこしろはかこなづさしを志ゆさげ乃そしれあ
らしはさしたぐるくしをれさし夜なくしやこれゆきかふ人
をまれなりかりかんやとのくはしを夜なぞひやうまてあ
れなりさくふさはこちうだやうありたしれなりひしはむ
うし乃はなさけおさかしざりし人なりかればふんくさは
ゆきとふこまけなくくはあとをさづけまのりくかまい
らしれはまうとうこうろりきこうくごうえうあしよ
さこつまうおんかんがちうしやくくさりおりふまりせ人め
をくさもかれぬまでは山ざといとどさびしきれみかしろさ
乃ふかれおとおとふこうくろ人なるしみこはたしぢかくい
でさせまひくなんでん乃はかこしこがんだりあがくにこ
乃山をはしんじめぐしげふやたるはあとくなりはしげつ
あさはそめふせはおつるといふせうめいたし乃おがしめしつ
らひかうろかう乃ゆきとばしをれとかくげくみるしんと

はくちどさこ給ひかり中だやうしはありさ夜と見えまま
はるはさぐゆめれしちせしれかるがくまのりくむりし今の
すどもかうけまかるはつけくとぎこよのはたりとを志げ
つもあへさせまつぼとりとひ乃おん乃はゆうかうかこのゆ
きれはたかがりまでおがしめしいそしまくや中だやうか
くぞかしされかな

まはまくはゆめかはそおりふ志ひきや
ゆきふこまけく君と見しんとは

みこをとりあへさせまつぐ丑し
ゆめかはもなはるおとしんまれ中ば
そむかざりかんすぞくやしれ

かくてぢやうぐりん四郎ふはしぬけまくしせ給ひし
かばとのこゝやとも申かりすんとくてんまうはとしまそ
かうぎこよなりしかばさい二のまうじはとしれさいまそは
ゆづりとうけまふせいまてんまう乃はすこれこ乃らしは



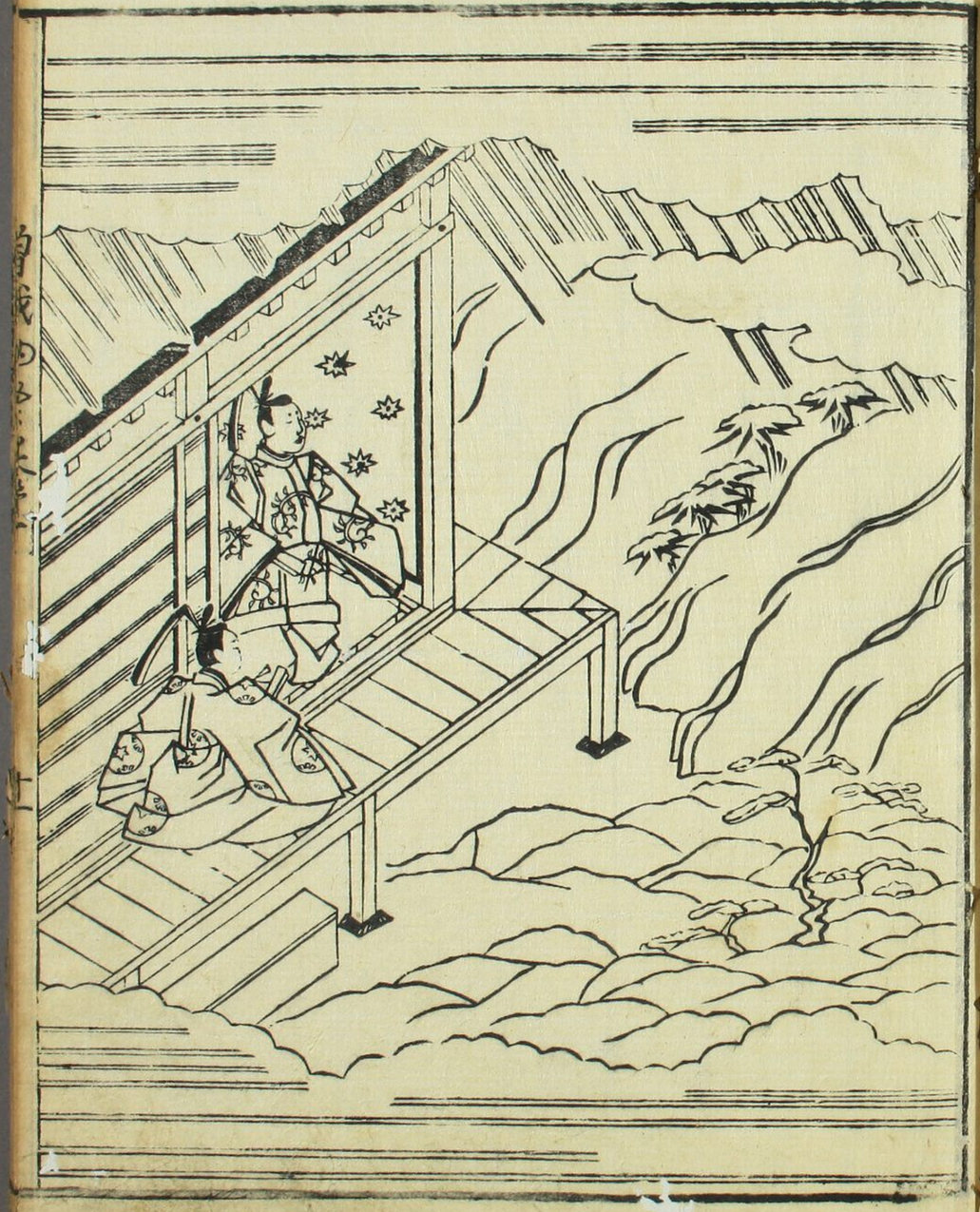
みくかぜとぞやかなりぶりれば[illegible]をそひくせいらうね
ろをおうかんのあきれぶりれおうされくしそとみぐはたくが
とうとしやうかんの月にもまはこれひとへにうつもんのいふう
ぜんぐいにもこへくうんてうのゆへなりぶりにせいしとひそ
めてせいとれみぐれとせいしぶきよくのあらそひとやめ
てきふくせしなくいなりなり

三

いとうとてうぐしをなす

こゝにいづのくにれぢうへいとうの所もけちぐ夜ごそ
がれ十郎もけなりぬるじく御前されし○といふすれあり
てぶやうぐんのぢんなのもとぐうしはおやのかくれとうち
うりがいとせんぢやうにかどこしおとうぐいにとぐめかな
ゆしおとくりしくこづぬるにもとかりしかれとこがくどう
さぶりんもけつ○なりたとへばいづのくにいとうがいづさ
みこれ三がぶしよとふさ○くぐずこれぶやうとがうもれがれ
かんぶりはいぐどこれへぐうぶやくぶんまてありかるがいこ

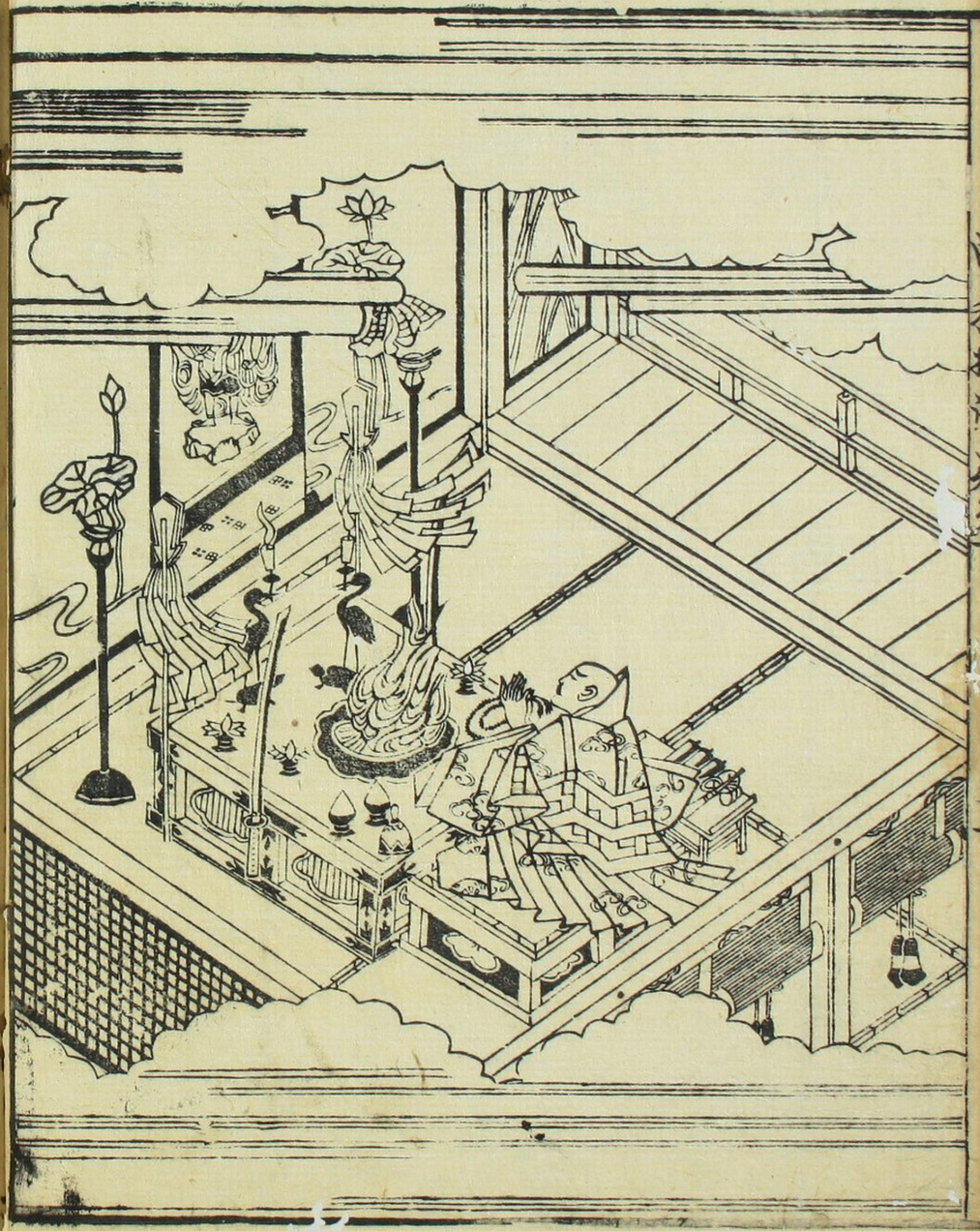
くのうれいぐどうたゆふもけのさやいひかりなんしはまさ
りちうりしがみなさうせいしてゆいせれもてにさんとれ
ぶりあひぐまくひもとめのるとりくぢやくしよ大てる
いとうとゆづりむしやどころにまいくせぐどうむしやもけ
けぐしうれ又ちやくそんありぶなんにそくうりけとゆつり
うりけの所となのくせかなぶりあのぐぶやくしんせい
きよのくちもけちかおりひかりはぐれしそちやくくな
まばちやくしのゆづりわるつきはいぶやうたりんのまくむ
もめれるこれいぶにのくぐうぞくもうしそやもかく○ゆく
おりふんつきにかりこれまことにぶんつきよにもそひこきぶそ
んをこしぬづきあくじなりとやたとひこにんなり：いふれ
おやをうしてゆづりうへいおしんのぐあるへかしばましてこれ
ハぶやくこんなのくまくむもめのりしにかしひくぎふかる
ぶるなり夜ことにいわにかりゆづりうへおくそふすむ
やくのよしぐそくにもアあひかりされれもけちぐど



四

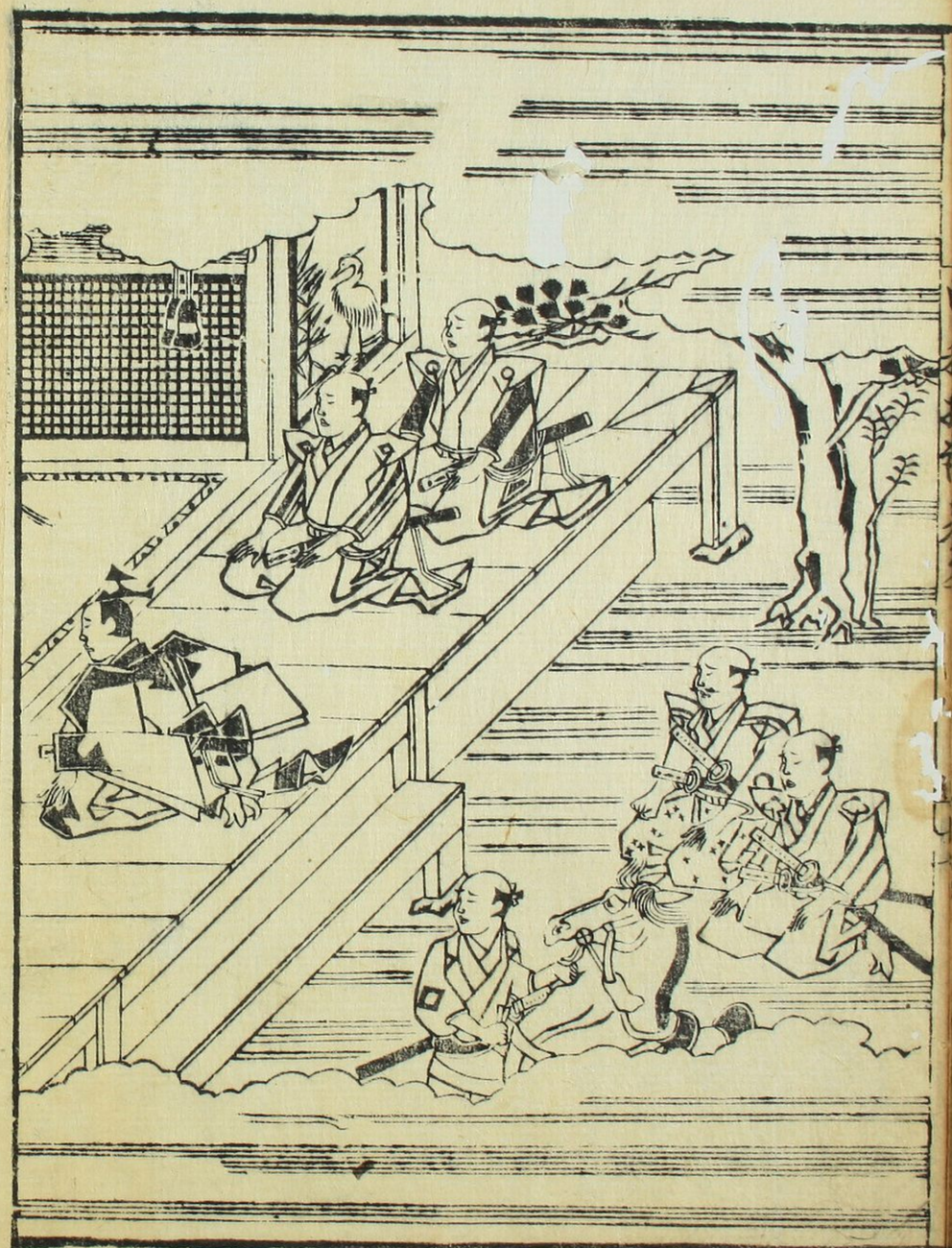
おなじくいとうがしまをはす

さてもいとうひしやいとれをいゆめにもしてぞれなんね
おくのかりしておそだんとていくとそろへせこをもよほし
まうたうあまたあひうしていけ乃おくのへぞへよろころ
しをなり乃ちを思つくみ○ふかされは末のまよりじしく
まなびくいざぞとしまりしまりざはうぜにおかされてん
ちまいなんばこづしひんぶんりどくとこしてちうさあ
ぎよりかつりまりはうばうさなるかどにいよくおもしぞなり
まかはそのとれ九月ふなりかるかれいしとよびくごづかし
まをとりやしかはいかにおのまさ十さいふぶにをなしざはをと
もそくしなんすとそうなしかれしやうじかざりありのか
はぎかしぜなんぢをされかわれしざれをどくしてそぶそんと
さめぐしなさかりかふいしはるさかればだなくよりは
かれすりなし安ぞうちうくなよりなしぞをおさへくいひかるは
かかりぬうさまれなしひなれしせめくかふいしナスよなんん



さてぐそぢやうにいまく　△いけ乃くふ乃ぢうふいとう乃く
ぢ一一部たいら乃まとけつ○ぼくまんでぢんまやう
まやくはさ　とかうふうんとかつまはまさいのまさき
くぐんのてうおかちくどまれへさうまやくまんまさまの
ちまんふとうむしやまとけつぐそのまやてはまけちうさ
やうぐは乃中ふまるまるにまつくぐはうけとぐにおまふとい天
まとけつぐたうぶくてうあひさるにまつくおんどれはくこし女
とまいけくどぞにすう○んとおりんはごうまとけつぐこ
かぐさり乃やまひ乃ゆうにのぞむこさぐまかけ乃ゆ命びぐろ
乃いしまとまとれぐちはちにまぐひきくはこまとさまけつ
祢はじやう祢ん丸さいまりさおぢうかけの以命にぢうんかん
まよまくまにあつけおさそ八か○ん乃まはんまうとくは
おやくにあしまはまこう乃まんまりぐさやまにませんよの
げいにまかせいとう乃以命に給うつきうよまとけつ○まかん
はへさうさうてん乃ぐうつまくかんたう乃まやうさ

いとあふんとかつと仍うせいかうせいくうごんまやうぐくうの
こし　おんあん二祢ん三月日たゐし乃まとけつ○
とかさはてさくぐぐじまよにふ山まやうとびうんありくぎしあ
こはだうつまはまづしひうるよとくまりあひるはぐんひやう
ちやうまはまとけつ○ぐりぐまやう二ひしてひぐすまるしこれ
はさいまさよせにはかんかうにまそひきまん文いとうたうと乃
がせくぐんじぶぎやうとこれひしいぶまうれまとけつ○ま
さうまくつまうんこはあひぐごぶぎやうまよ乃まくこくしまり
がさかれぐうんとれまやう二つかさくぐ犬まや乃まやうしとそ
へくぐさはいとうはまんぶんまりとも給はまとろぶぎやう乃
はおんとまろしびくかんぐくへそくぐりうるまよはとがとつく
さはことがくんとつくさはしと以八丸二部はとがとうしまはすまより
かんまよは　日和てうぼさうじといくしこしし八か○んと擬
ゆるはかさ○くはおんしそうぶうざしめせんそれまよまや
うとまんぶんめうるまうそもまふまりぞみかうまこまつ



[illegible]

[illegible]

六

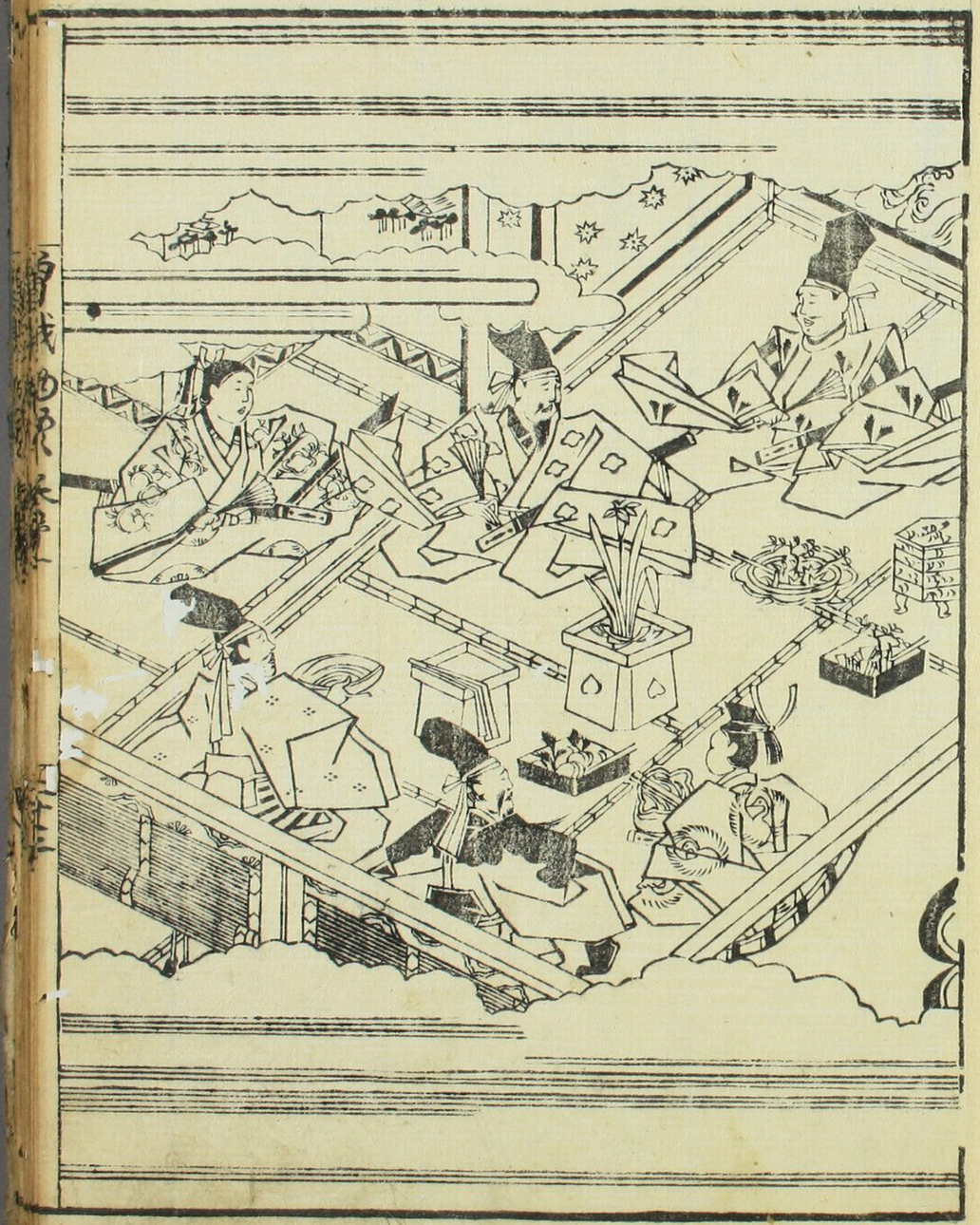
[illegible]

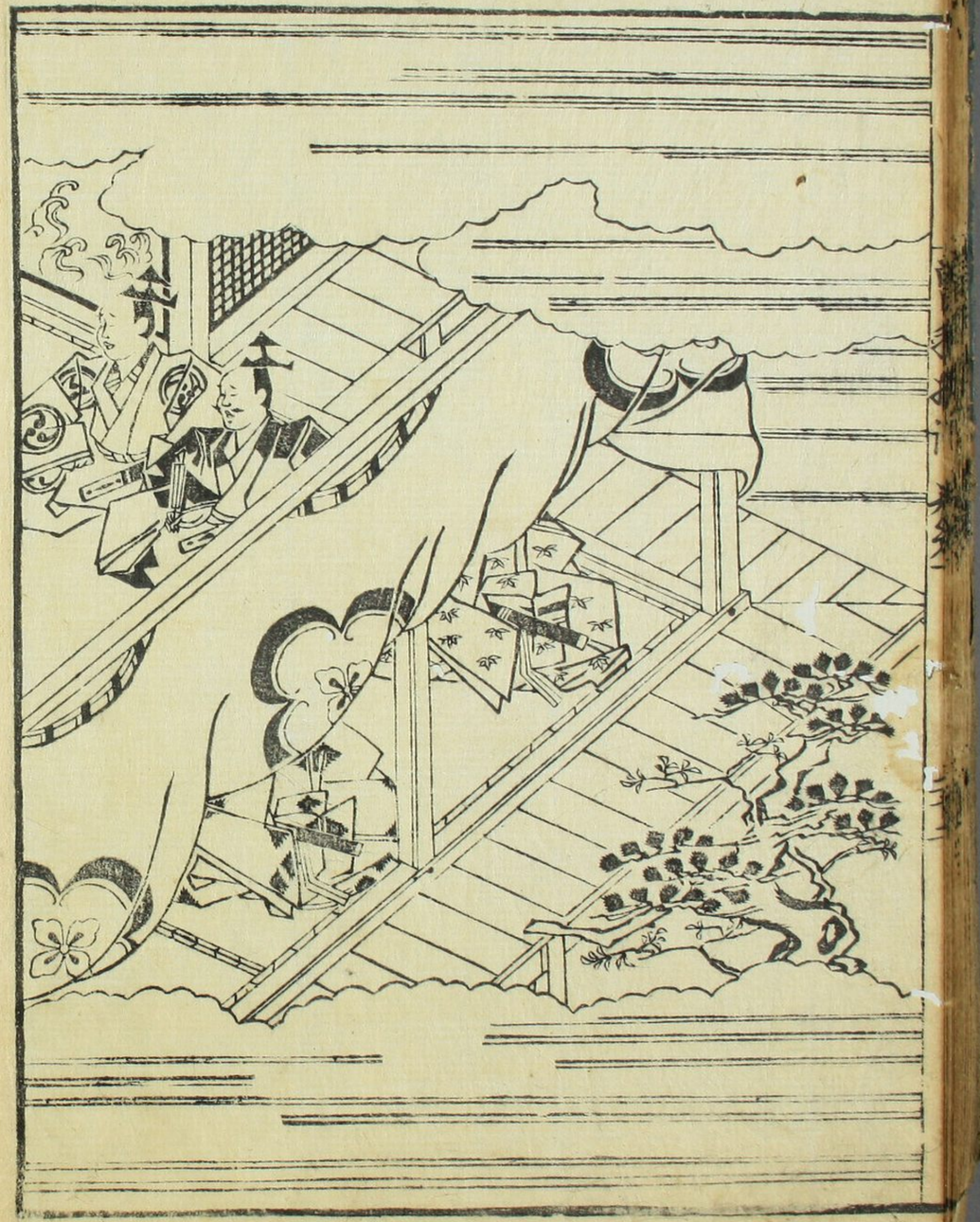
せばかれぞれくかがりの三郎ぜんとりしまげしてしてあさ
せりせしいひかはぞやうのうんのさいめあるかがりたりと
しりぞんびんのもれまそぶれうちまぜりしやうとさんどう
人ありかればかれりして此さひのりとりとめあがりするぜ
しこんれおりさささぶらひの中まそおやの中すなればち
うしおよがそおつとこゝろくざしれとさらぞれとせこをそを
しばしかはおさあさまれいぜまれのりくいそこおしかはゆこ
やとそとふまればくどこれしやうひろくしてけうあやく
こゝろ四人百人そいぞこりかはかれくとされとしてこゝろこくのへ
まれもくとうちいぞこりやうかがりがさい女がどの女どうう
ひさつまくおなこれ中もんぶさらいぞこうちいぐくかるへこ
とりんとくまかる中まをかがりの三郎はまれ人もまかりれ
きろもやうこりがしもぐまこりぎうちの大しやうといひこり
ともわしかしどまあがしをゆうふみかれもれかふたのりし
とのあひかれぞかがりが女どうこれとさくゆこやとりの三れ

でのとさく女人とくはすせんあしどちふいしせまくといひけ
かればげふもとそのくうちふぞへふかはかこか月十日あ
まりふつのおくのへいりふかり

七

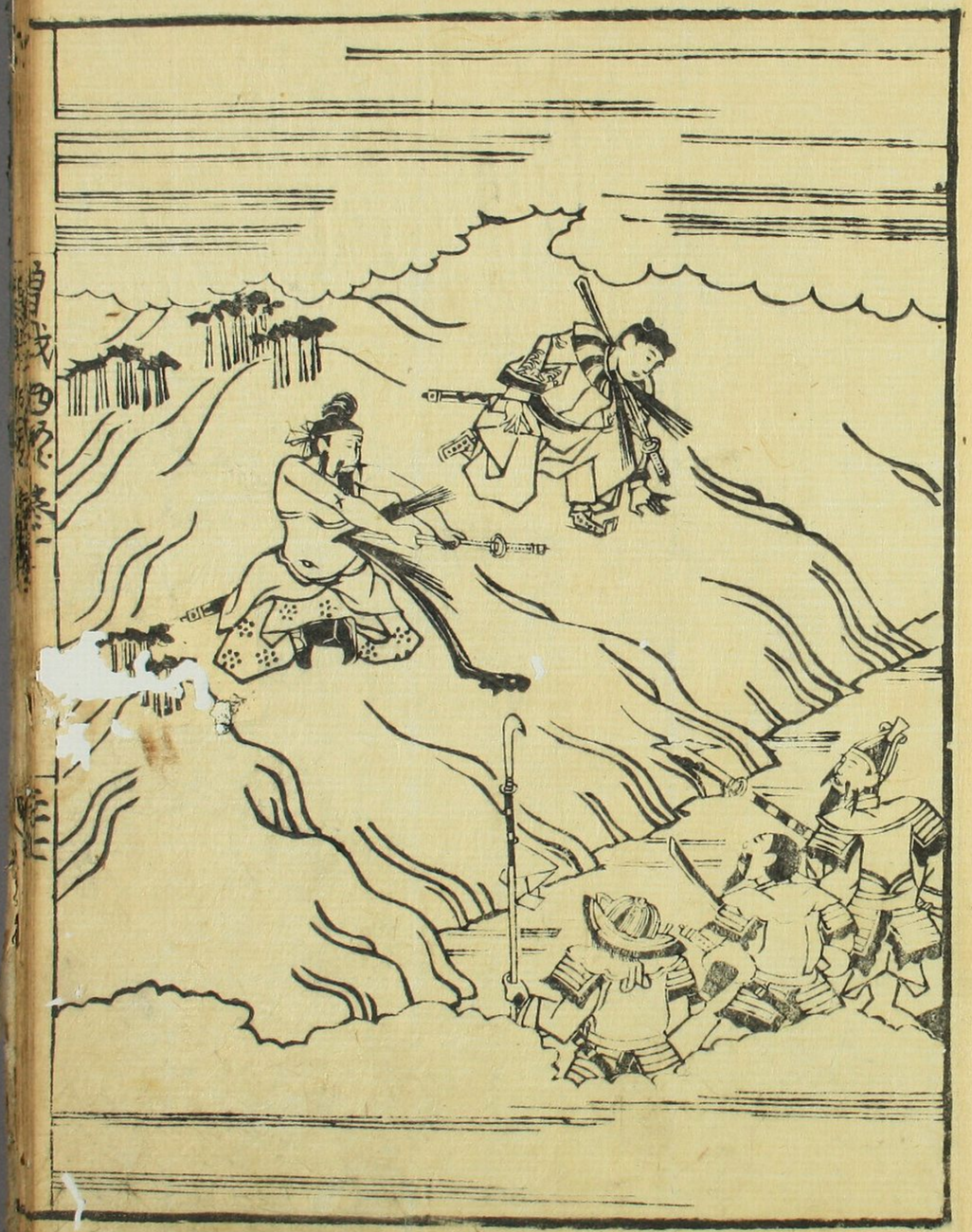
おかこやもくさがいとうと称しひしまり
こくふとけつ〇が二人のらうどうさへやりこれとさくかや
うのとしろしそまれびんざなれいざやまれしたまりと称
らんとそのくかさのひくまふしやさげなけ急ひ
とりくつをしくきれゆこれおまげあるとうちくげせこれか
こまざれ称しふとしろはどこくぞ二日はりしはがたうげぐ
まくしがされ二日はおさがくかしきはがさい二日はあがくしがまこ
りどちらさがさはおかぐはがこ〇とそしめとして七日があひぐり
こあぐりてぞ称しひかろしかれたいこうはくふ一もん乃ぐい
こやうまそいしまらうどうおかりかればさやことくぐり
つきやうそあかりかれしもがんとつくしかろありさ面た
とくていふぞこかくぞあさ





さしあゝ御ちゝ[illegible]の御[illegible]
これをきてはゐひさごめてはと[illegible]れば[illegible]やをくそ[illegible]
[illegible]さて又二人よりあひ[illegible]今[illegible]
[illegible]のらはやをくのこり[illegible]まりてかゝるをうらせく
たしとよれこそ[illegible]さんすゐ[illegible]さがう人の[illegible]すゐ[illegible]
[illegible]こうとなれすがんよんせいなしていなりがたしよれまづ
[illegible]さて[illegible]八十一さいの[illegible]さくりくとつきてく山ふこりり
うつくとまちかゝん[illegible]うちじざんといふもあまりありそのく
ちていゐいはかゝれ[illegible]あらりふゆきめしつかりれんとす
てきまうきゝ[illegible]ぶれ[illegible]とそてありてとよこしぞれよつふ
づきまんかれあらばさりながらよりりどきうつまばさもや
とゐひかゝれゆうしあくとゐへ[illegible]ふおそれく
ゆかれんなりりかりひありせ[illegible]するれば[illegible]れ今[illegible]
ふつかくこんなしぞこがひとゝりなれ[illegible]せかいとせくあ
まちまゝくふかへくこれかゝるりなくとしりひまいれは

[illegible]ん[illegible]たしぞんかれまよきうもつれふかくもゐる御と
[illegible]とくりしくまゝりぞうつてとまいりてひかれうとう
ちぞびとりくあせまいらせんといふぞれときこくまうぞ
がくの[illegible]とすしぞとみ人の[illegible]れとさしそへぞれしがかくれい
[illegible]山へ[illegible]せ[illegible]とうどみとされし[illegible]そあげさりか御
まよきうはゐひまうけ[illegible]するれば[illegible]まりかつりてあと
りせばてゐいもくこゝぞくゝ[illegible]かうめいまう[illegible]
[illegible]ん[illegible]やましまれてゐいうつてふまいりさうぞうひやこの
[illegible]りゐりんよりぞそきぞがいしまへのがれまふ[illegible]
あらぎとゝ[illegible]れば[illegible]よきうさちいでぞが君[illegible]ましまれ
すかくしゝ[illegible]ぐきれあらばまちまへ[illegible]あるへしきりあが
ちぞふ[illegible]大しやうぐんのてゐ[illegible]ゐいはさのふまぞいゐさしきさう
ぞん[illegible]ん[illegible]ぞうしぞさん[illegible]ちうを[illegible]
[illegible]さうりぞとかうざ御ふ[illegible]ん[illegible]てと見ばやとぞ[illegible]
[illegible]ぞてゐいられとさくとさ[illegible]きがふあらひぞ[illegible]さも



けくぶよさうこさうりく乃ちぶ[illegible]ぜんそのうれとおもひ
ことせおくにとゞくくぶけまりおりそのちぶ[illegible]
にいと雨とひくいりくぶれぶ[illegible]さうおくいやくしていのち
と和ふそまつかもちそくとあらそひしなりぶくらゐこ
きまぞなりぶ今ハおひおくらなけきぶおよさうかくこ乃ち
げきそ乃ぶもちづくしぶがいつか雨つらんとやそのまうぬ
きふるけきそぶれとゆるひすしぶれたひまとうら
ひぶのびいそぶよさうがつかれまへよゆきこ和乃ぶくらゐ
いおりふまくなりぶうにうれしくおひまふらんぶれ又かくの
としいふしへのかいやくまとれどといひくまらかさうら
うせにかりおりれなりしたゆしなりぶされがぶこやかこかぶう
のさゆふいのちとうろんぶそやうと称らひしぶしぶれふ
ぶとぶしとぞおがくかぶ

九

おくのかりくらう乃す
さそもつやうしがこくのへこのくぬくのふかりぶ

ぐくよりせこと入くやうんうりうぶ御ぶどれ七日がうちよぶ
乃ちく六百がれちくチうしらぶ雨二千七ぴさくび三百それぶ
きじぶどりさうぶさぶむじぶきろ○たぬきさぶ大うれさぐ
ひふいくぶまぞいぶやうそれがぶ二千七百あまりぞとぐめら
まうぶいまいさのしやうんとかろぶしてなふくうせんとそのぶ
くかしいがたうけふぞおがりうぶ御ぶれぶどれざろしやうぶいう
一人してひまなりうればりこせこぶさけぶくこ乃ぶんざんふ
入ぶ御こそかんいなりまいぶやふぢんとうりてぶりうもふ今
一こんとくめこそまつらんぶ御ぶしとぞ○とれ人こ又百
よふんぶうぞにおりぬつぶまういとこそいせられ

十

おなじくさうりう乃す
さうかうにかしいがたうぞにとのくうちあがりそればとあれ
ぶ命がかしうるいけふ乃ぶさうりいぶ○てざしぶれぶさぶあ
ぶ御ぶしぶうきうくこ乃ぶのらんりやくぶきぶ大ぶれついぶこい
られとさくぶれいぶどいのざしぶれとよかとさぶむぶきぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すがわちうしまぐごしてなくなりかわらまつんとしたべどもしたばかれ
すなればかかりぞありけるとおもくのこさごちの三郎とぶな
うし乃十郎がゐくあしけるあひごにおとめなるいし乃ごさ
こだやくごうりなるとよりてりこがやしたひけれどもとうくと
あゆこうなるとそおもくの乃ゐしこしこんとしひごとおもて
たくしこふくみくゆしやの乃ごしたとうごうこはなるがゐくるい
たといそくたしまふゐるとくりそのゐふへとくとそこ
さうごうとはいべこれあるいし乃二人があひごにおありてあ
まりやう乃ふくさしたそしのひくみごれゐとさしのべてが
しろさ後へとしけれが大せきがとされくこれへどうどおちけ
ゐびなれがんへがこれとそてどうへかくくの乃ちにおのこと
ちこんへにこれくちどれとしたれおやうりにせくさうと
やうといひゆしやうりてはたんくのちやうつやうもあれかと
さがくひやしかめくまいよくさしまくとまし出ひ乃たるざ
しさしりをしみいぞよしけるかたくゐまれさうつさもさけすよ

てんごもおまりにおどうしにおがくに大なるけさうづくさとりのしてひ
しろ出まりしくかしとしきれにさしぐちどれくおりせしそお
りしけるれとてゆうの乃ゐ郎がいとりぶいとりぶくしにかいを
日がん三だんの乃ゐしてがんてまいしせくりしとこげにかいかを出
りちひなさするれはぶけにくごさ後ひさけ郎がいとぐちく後に
くごさ後ひさけ郎がいとぐ二郎がいとぐ三郎にくごさ後しん
をけるりのてどの乃ゐ郎にしてもうでんしやうとゆうされさ
後うつかれとてひさうしてりちうるとおりふしかけの二郎
とのがひとれなりくさくりしとひさごりれにしたりうりう
ちなのまなりにしてがくとのなりしぢにまれくいそなりにあ
とさしたりひさけ三郎ぞいりうるこれとしりいさしこれぐち
がりしまりくしどめて二下とづくぞまりしうる天百しまんのりち
ゐ後さけるれぶさけにふそくぞなりうりの乃ちにからんぬし
ておどりちひてそあそびうるおびるれがんへざうつさひうへく
中うるにこれはめてこれまれ中とどくくれさうあがくくじうしぶ

さりおるしんすこそかしかれらうせうしらやうしらひ
あがしがうれたるのまあるもれどうしれどうしれどうしのやうにおまひう
さりんとしてもひざあるひしやもうしせうしがれうよ
うしてくだんらうがらうぜんとせしやうにさのりまやしの
しらあかれまくありしとさたれかがれさうづさこそのの
しうしとぎしされふとかどのすはあしのたおひのさうあ
やしんごしひざれさしざなしそうあしかれひしなにしろさよ
いうひしまかしやおひにかんのまさしたしひいでらまくは
かれにしそはおがしかれ

十一

おかしくも聞ふのす

さなかどにいふしをしやまひでさしさかまうぎうりにはたかり
川かりのぎりあしにはちうしまさざと聞ぶりしそおりし
ろかれがうさんこともまやしりまへ見くあそがんがんぶつ
まいうつやあるぞさしいひかれがいのしのうにのちうんみし聞
のべうしやうがんおさけしうれまりくいしろがりしの

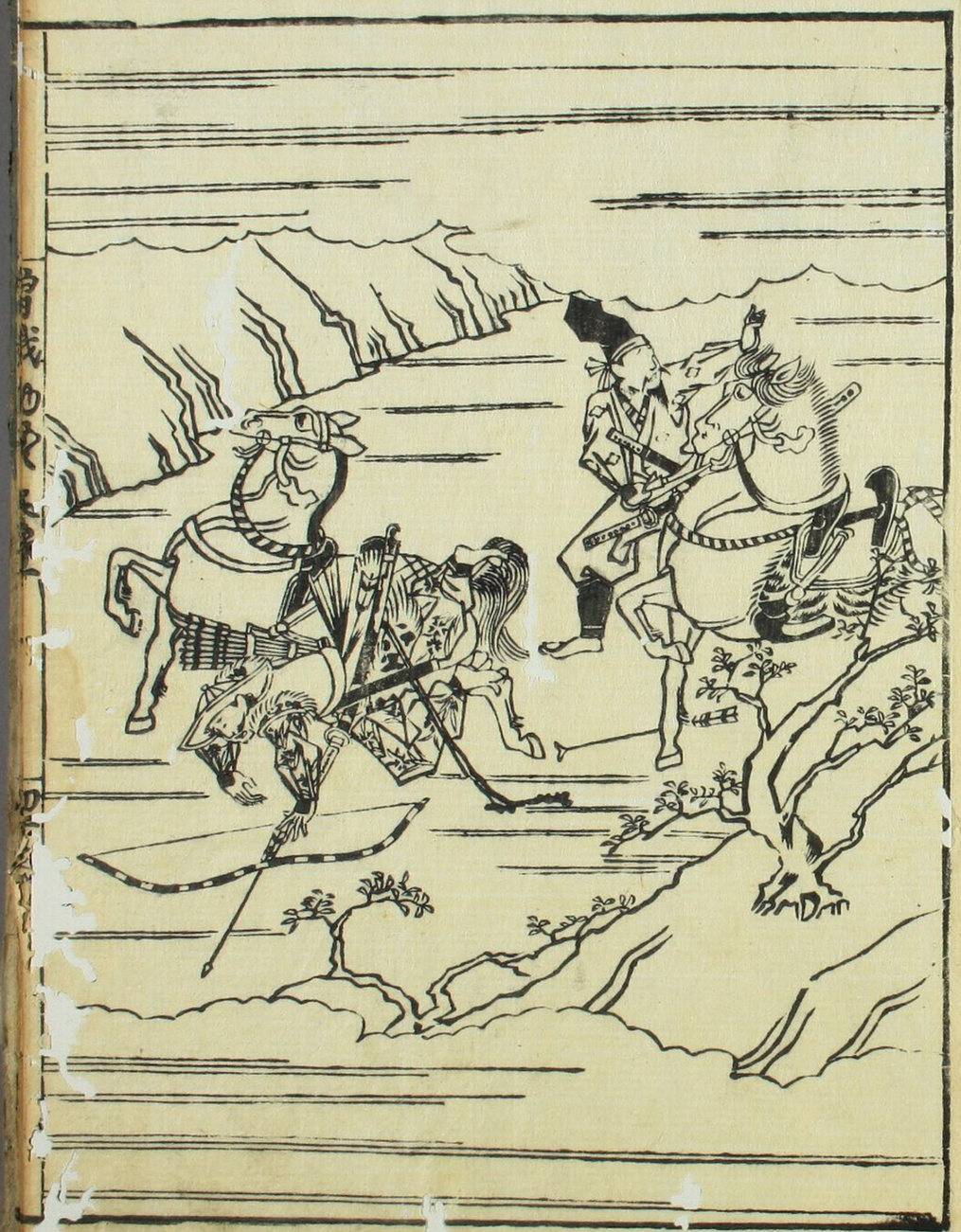
たさぐらどれとおひざまれやあ御どれいてくちりまれ
しそあひどろのちうしさけざもあしがのぐういでぐざ
やうしにさしんといでれぐらさしてだんとう八うくま
つまれまれなさかゆどれこおしことあひくにさしなし
ひまれうへおらぐちありしとまさしさんさしさんぶんこ
らうさしいひかれはやあ御さしていのどしながむさしたが
しにつまれまれなれたさぐらがせいしちうとしや
ひなげらうのこれひしろにしそぶるやうにまりてぶ
とはりそぎぐひはせいちつさくだうかはかれたしろひ一
つやうかにひろかけゆしとしたりやうさおひしまれむまり
うらありくせんがやうにかけいぞしありかなしそ
つやうたがあひぐにおちうさなりさしのかこ
なくぬさしうにおしかぐうたのおしことひつけらさしり
とこしあけさうしぐとひまりくさしてだ〇うやしおさて
くびとしうてさはたのおしこしあれのしのしおぐましひてそ

だらうさくぞくびをつかれつかれやせてまけさうな所に
乃や六はつといでぞ命をとることけくおふのささ内にうち
とふれたきぐらひのんにおひつくおとく乃三郎がいまさか
きざ所されにおぐらりいぐくだぢからなりなれば六なにゆとこ
まらばまけにかりおかれやみうおとうと二人まうしてゆと
ふらどれおひたう内乃としきくとそしてひきうとぐら
なこをぢえりあわせつまくおさめたしつしいぐちがくとさ
しあひちからひきくれかれは大のおとこがふまうりてどと
おもうごうされどこ一ぢやうりれをまけぬなし内とやを
まふはちうしにましばまとにまさればみぎは内さり九のあひ
てともうつかれとしおひいさしておひざりとみぎれとぶしと
みぎりうこめたとこぐちがびん乃まづまぎれてのけとうら
かればこれぐらうこまつくざう乃とぶしとうらうとそのて
ちまかじおくらししてとまかりあひか所いまはと
まふはとしてびしへにたうざれとうろんとぞみとか所つしやう

だうさくんとを所しとろにやみ命ひまなくはへといつも
これぐらがこ内とをいくだなおしろにおしをへうりいさかひ
たうこれぐらおへなくまけおしかしくを内ふぞなりら
かうやみ命はかうぞんおつかたきぐらにかうらく百千だん
乃まけをれるしばこれにかつしそうれしかれなかれなり
しをとおふしろにかつら山乃又七いそくまふをたましに
まけてのちぐらやうやう乃をまふ又だんまでからてこれ
こ所ありさ内はいさかひわまりてぞ見しか所ごくにさかし
乃くに乃ぢう人やきおこのにみ命出くおひざれやみ命を
ちじめとしてよきことまふ六だんかつどうがれくに乃ぢう人
こけ乃おこれまぐ八いぞくに六郎をとちじめとしてよれを
まふ九だんうつくいらんとすうしろに大だうおやてい
内このみ命いぞくまぐ八をちじめとしてよれをまふす
だんうちうれいぞくとうしんとうふれをしを所がれくにた
うし乃ちう六ぐさいとうんとうふぞがいありか所おひなれひ

でさこれにそまたこのくみ命とおもうらうらやかけひさきてどもおぶさしてあるんにしたいひかれは為ひこれとさくまたこのもよひとつぶれもよひとつぶれくしておしまけ法かまてハ乃とまふとは十人かりもしひとつとにおひさうかれとぬぎおさうかかさまうけまくまいのりこへうへまいれへいさともつぎとすきともおしせんせめさふをぶさおりしろしてす人ばかりかみのくまくれいつといでぶつまいるへせめかれたぐ川さやうハ志やうどれ大ぢうしるれいつぐけて廿一ばんからかりぶれとさこのれ法命さひしぎしれとさらづまぐまるのに目をいさしき法あふぎをひしきてまたこのとまいしあふぎてぶれ川とまふかあつぶれさひしかぶし十五をまくいでくさらがやしらふまたこのきてなれかくしるづきいでまへ一ばんさらんとまふかさしにふしりかれいひかれいしいきなましのれしいをかけておめくといられて

ちうよりかれすりかしいとうはみうらにおくしくかりぶれとのがひこかりどのがうふ乃ちおまくは此一りんにまるかれじやおへいとう乃法命がらやくしかりぶ乃三命をけおげとはちくいとうより人かりくおひかれは此二ひ三乃あそびかまたいでくれさいふ人かりしおひ乃おつぎにありうるが法しこをさらくおうとれどのれ法命にさやきけるさうふ乃出さうりにはらうにやく乃きしひかくはにたまやをけおげ一ばんともうけまりりぶしかしくうりうちうさかれおひをぎしさうにてはまさのぶしいひかれいざひひしきてまさのぶしいひかるくしきれぞどらんさりふらんさりかぶらじをまりしていめんがくかしさやおひかんつんじまもおよがでせきめんしてぞおさいしかうちいとうこれをさしまかしもちうしいつよれのをどらせくこがやとおひかれたためしふおりつし此刻と定おんづうにしいでくれといひかれいひさまあるかさ



ハとそれぞとゆせたたすかいてぐなれかんかく恐
たしやう孫しぐいふみぐれむまよりまろさうさ後よおち
ふかりごぢんよありかうちいとうの次郎ハつまをばゆえ
まもしらぐぞくぐりかうころかまるづさ十日あまりのうか
まばふめぐりのむらしぐれぶりみふらぞとさぐめかくぐろ
よりくをのこじくふぬまじとこ後をもやめてぐぶかひ
くろところふ二のまぶしふありか後大きれことうぐまちうか
ておくりかれたしるしかしひぐりのてのうちのゆびふくけ
まへのしかでの孫ふかくてこしいとうハさ後ふかれかれよ
てありかれぞてさに二川のやとかさせじしだすのかにも
てりしめてのあぶきにおりさがりむまをこぐそふとりぶぐら
ありやぜんぢんハかへせごぢんハをくめとよぐつまかれバぜんぢん
ごちんぞれおしらじとすめどもどころしをあくしよか
まばむまのさくりをこどろかぐに一人のうれハまげのび
ぬくまをなくまちかれたおんるいしやまそぶりぬしげと

のみちをかへたりかれにやうまぞへよかうおやうかりしい
のちえいとうハかりのの三郎かふしこうとろふたちより
てよハたすかるかしたひかれたをとをせばをしうごかして
やとあくぬさかれぐいよくぜんごをしぐりかうが
ばがかうべをちいとうがひぐれかさのせなまごをさへて
かうハとハなにしなりゆくすぞやおかしあられやかうが
なぐしをもちうまハあらうぐりかうぞよりひうふきかう
あれどもしぐぶうさかるれたまのをもちてしそぐ
だうまくうしんやもくのちのよりしてもたのりくぶひ
つかにあへなくされぐつすのかしさよ今よりのちぐれ
をこれそあつぐさぞかんぢをそぐめおきをけちうされぐろ
かれかしぐぶひをくすこもあしにぐうせうぬぢやうのまれ
こそかしけをとてかぐづかをとりふしろふいまうどき
かうハいかふやぢやうぐうかりたや一つまそかれをもいとぞし
ぬかれやあるといひくをしうごかしかれぐのとれをけ

十四

いとうが志田のけ[illegible]

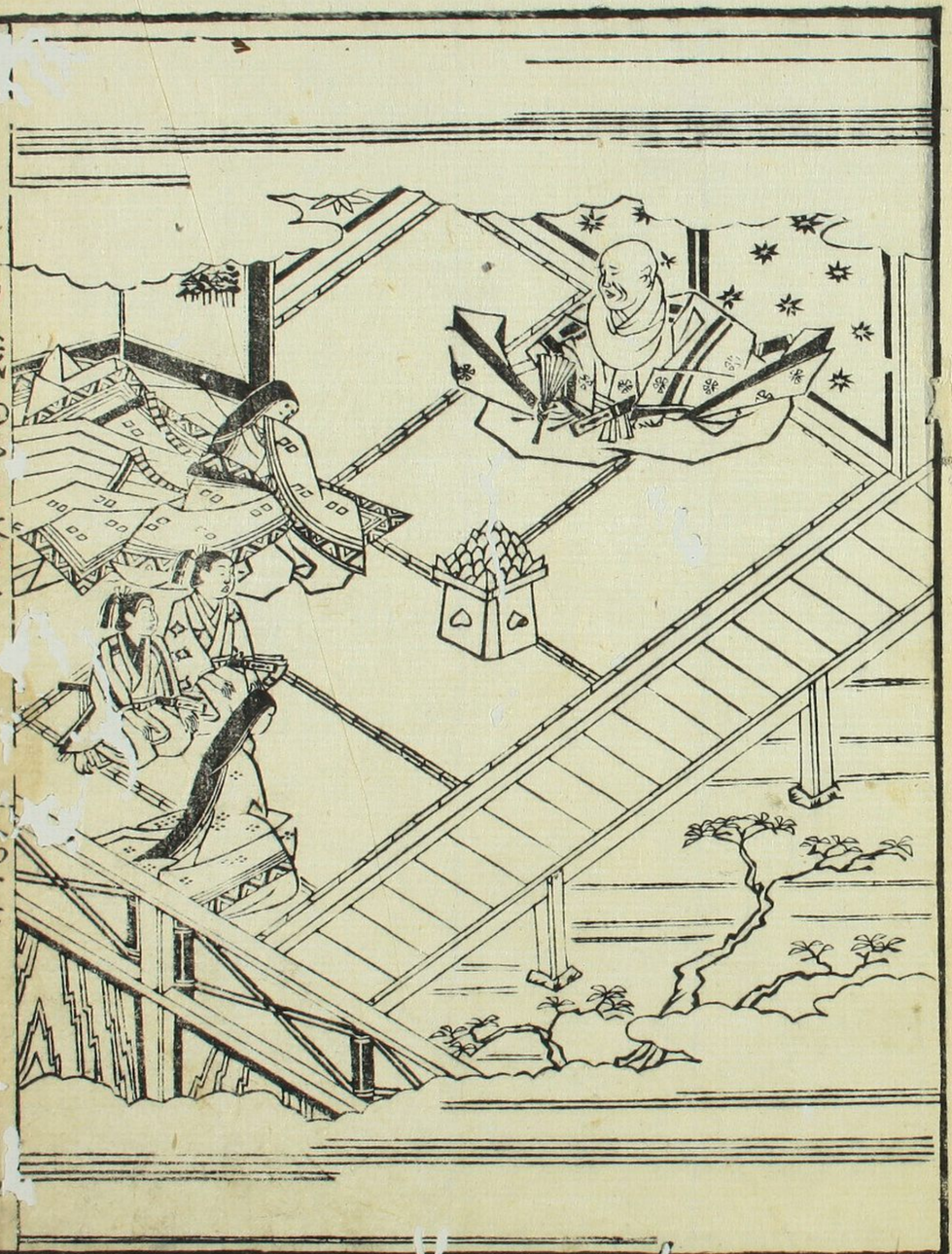
かくてちくいとう乃ひ命はさうちまな[illegible]するれたれも
のくかぐいとさぶらりんがくあふ志田のけしてぶさうふあて
て三十六がん乃そとばとざうりとうしてそまつる日ちやう
りん乃ざぜんなん妻がばとつくしてざんかいと[illegible]とあふあ
まるりける一まんがちく乃ひさあにむちをとりそつくしも
いちく乃りれとてひつさけらればちくこれとこそよびよせ
てなさへのりれとばりるぬすぞみなくまとそよゆくまゑ
ちるかれりのぞりしなんぢがちくかとけふるりまひてごく
らくぶやうごにましまんぞごらりもつあにはまいるぜこ
いひかれはごまんよろこびくかとけといるんぞごくらくこれ
いつくにあるぞやいそさまし[illegible]ゆをこれをゆかんとせめられ
ばちくをいひゆへかくこをなくしてそとばれかくにゆびをさして
かんしそぶやうどれちくよといひかれはごまんおとくのぞと主
がてくとひさいぎやちごれりとにまいらんといそぎさかれどを

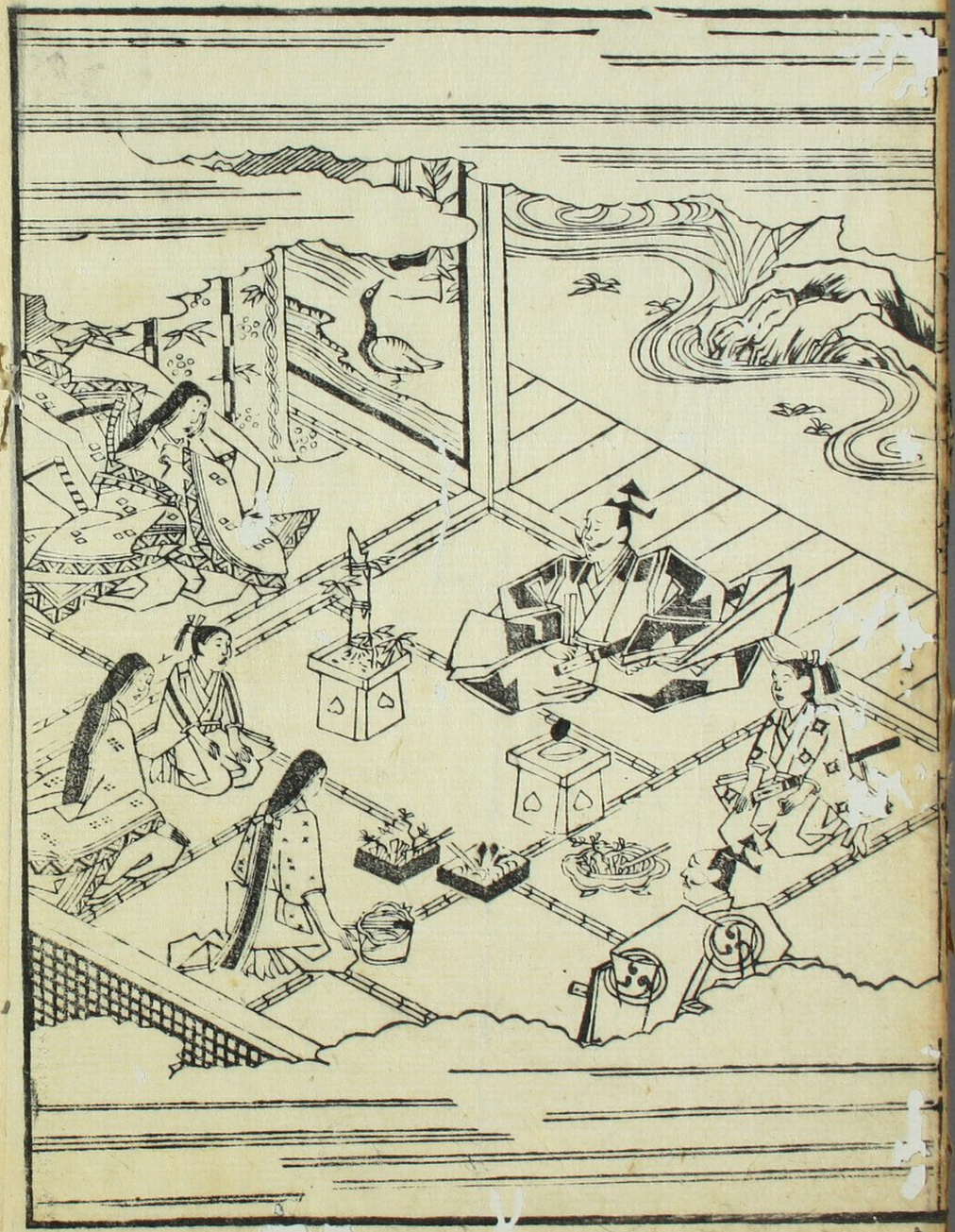
[illegible]ひうはこのふるりかれがあるむふまちもゆかばいそぐんふ
ぬとをとそくそとがれ中をもしるしめぐりむなしくかつり
もくあひぎれうへふたふまふしてかとけの中まもまがちく
ゆしまさばとてなくさかればかれともたになくさあくりを
日れせつかう乃みざりよりごまんがふるまひふとそさせん
たりとくぬしとりゆ十九日まれはたうとくやうまととりや

十五

そんだうがひまるくす

さてもかりがぶつじまとざしかばもつぎれあかつさかくこり
ゆだうまいなくざればんくやがそんくしかば九月たん合戸
まいざん乃ひをとぞこれくりるゆとにけかどれるげさ
まいざかごとあんじかるに何乃つくがもなくなんしをうと
かるぞくゆけるゆおのまいへいかうまとくなくさるれかな
今まこう[illegible]ぞくむまれてなどやちくとかざりかるぞぶゆうと
いふむしそおしくにむまれてけしたちにしまとうなれなんぢ
がいのちかくのごとしまとうりもおまにおりぶてくぐくのぞを





曽我物語巻第一終